

問題

- 利他行動は否定的に評価されうる (Berman & Silver, 2022)
- 集団サイズと多様性 (Bohnet et al., 2016; Rai et al., 2024)
 - ・ 集団人数が増加すると成員の多様性を高く知覚

利他行動に対する否定的評価の推測

予測1: 評価者が複数人の場合, 参加者は利他行動を否定的に評価する人物が存在すると推測する

- 否定的な情報が人々の認知や判断に及ぼす影響 (Baumeister et al., 2001)

評価者の増加に伴う否定的な評価の推移

予測2: 評価者の増加に伴って, 人々は自身の利他行動を否定的に評価する人数を過剰に見積もる

方法

参加者: 205名 (Lancersで募集, 2023年11月)

女性76名, 平均年齢43.2歳 ($SD=9.7$)

実験計画: 1要因参加者内計画

評価者数(6水準: 1人, 5人, 15人, 50人, 150人, 500人)

手続き

1. 個人差変数

一般的信頼 ($\alpha=.90$), FNE ($\alpha=.95$)

2. 利他行動のシナリオ(6試行)

参加者が急病人を介抱し119番通報(予備調査で選定)

1人, 5人, 15人, 50人, 150人, 500人の評価者のうち,

上記の行動を肯定的(or否定的)に評価する人数を回答

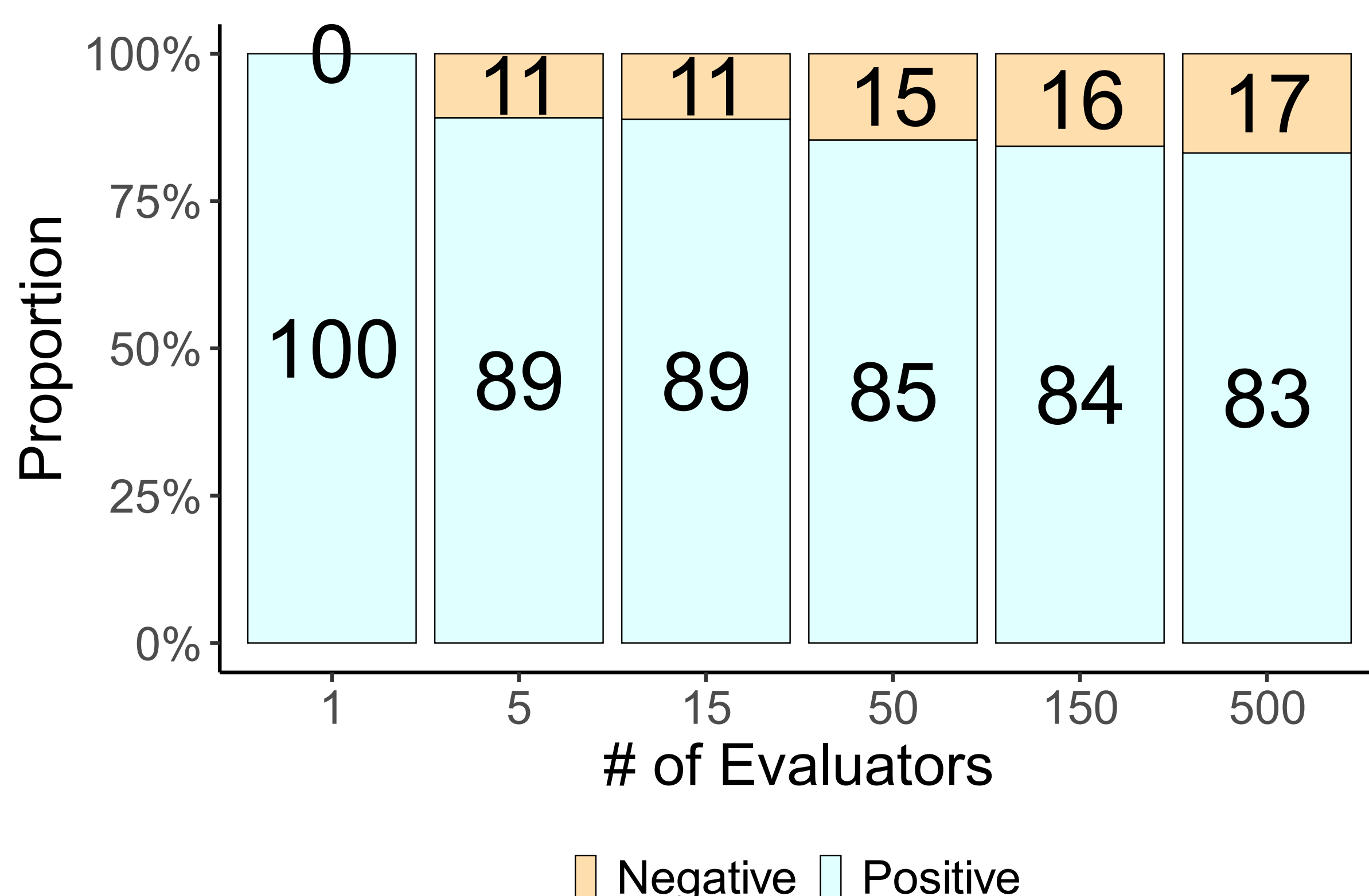
結果

参加者の利他行動に否定的な評価者の存在は, 評価者が1人の場合, ほとんど推測されない

参加者の利他行動に否定的な評価者の数は, 評価者の増加に対して一定の割合で推移

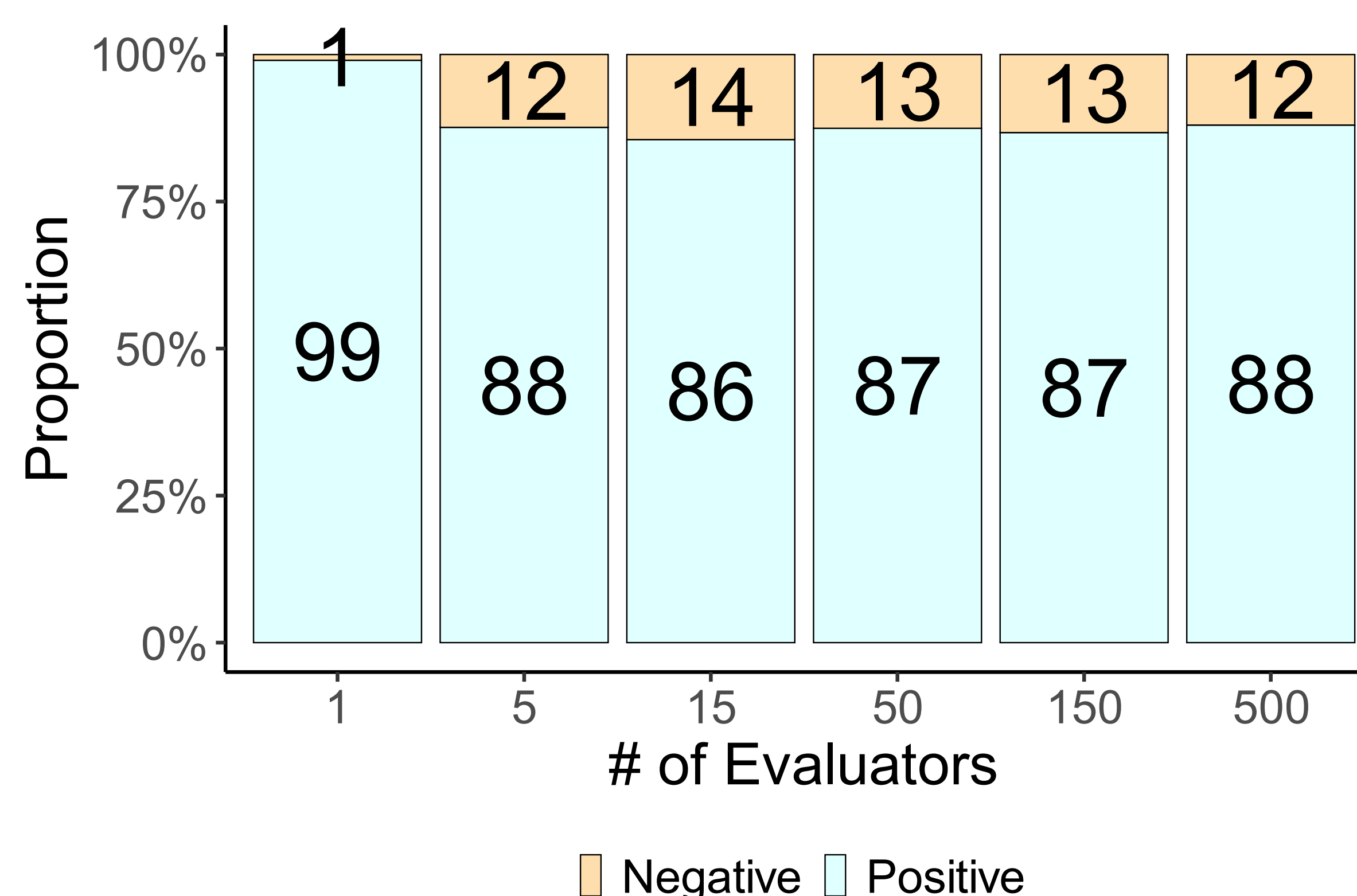
1回目の試行のみの分析

- $n_1=34, n_5=35, n_{15}=33, n_{50}=34, n_{150}=34, n_{500}=35$
- 個人差変数: 条件間で有意な差なし
- 条件内比較: 1標本t検定(比較値: 0%)
 - ・ 評価者5人以上の各条件で有意 ($ps<.001, ds=.83-1.07$)
- 条件間比較: 分散分析 ($F(5,199)=6.55, p<.001, \eta^2=.14$)
 - ・ 評価者1人条件 < 他条件



全試行の分析

- 条件内比較: 1標本t検定(比較値: 0%)
 - ・ 評価者5人以上の各条件で有意 ($ps<.001, ds=.75-94$)
- 条件間比較: 分散分析 ($F(5,1020)=71.14, p<.001, \eta^2=.09$)
 - ・ 評価者1人条件 < 他条件
 - ・ 評価者5人, 50人, 500人条件 < 評価者15人条件



考察

評価者が1人の場合

参加者にとって身近な人物を想定した可能性

- 同類原理 (McPherson et al., 2001)
- 解釈レベル理論の具体的処理

(e.g., Liberman et al., 2007)

評価者が5人以上の場合

利他行動を否定的に評価する評価者を, 評価者全体の割合に基づいて推測した

- 可能性
- 解釈レベル理論の抽象的处理

(e.g., Liberman et al., 2007)

今後の展望

より大規模な評価者数での検討

- ・ SNSなどの評価空間への適用
- ・ 実際の行動への影響

- ・ 評価者数に伴うリスク認知の変化